

光星ナインはつつ練習

第105回全国高校野球選手権の本県代表・八学光星は8日、神戸市の北神戸田園スポーツ公園で練習を行った。蒸し暑く、強い日差しが照りつける中、選手たちは「ナイスプレー」などと声をかけ合いながら元気に練習に励んでいた。

午前9時ごろから約2時間、シートノックや打撃練習に汗を流した。左右の打撃投手を相手に行ったフリー打撃では、仲井宗基監督が「遠くに飛ばそうとするな。ボールに集中して丁寧に打て」とアドバイス。選手たちは一球ごとにコースを見極めながら快音を響かせていた。

投手陣もブルペンで調整。約25球を投げ、感覚を確かめた投手越智（3年）は「暑さにも慣れ、調子はだんだん良くなってきている。チームに貢献できよう頑張りたい」と力を込めた。

（棟方好華）

光星 甲子園だより

最速142km/hの3年生右腕。昨秋は主戦として登板したものの、春はベンチ外。思っていた結果が出ず悔しかったが「下

はたがき 畑垣

しん 紫 投手（3年）



母のために活躍する

を向いている時間なんてない。前向きに頑張るしかないよ」という母の言葉にも救われ、夏は再び背番号をつかみ取った。兄・聖（ひじり）も八学光星で2019年春のセンバツに出場。兄弟そろっての甲子園に「チームや応援してくれる母のために活躍したい」と意気込む。

（和歌山県・南部中出身、174cm、80kg、右投げ右打ち）

打撃練習で快音を響かせた八学光星ナイン。8日午前、神戸市の北神戸田園スポーツ公園

